

第40回卒業式 154名卒業

やまなしスポーツ賞受賞

本年度スポーツ部門で活躍した個人・団体に贈られる、やまなしスポーツ賞の授賞式が甲府市で行われた。本校からも秋季国体でレスリンググレコローマンスタイル少年の部で優勝した米満達弘・倉谷修平両名が受賞しました。

卒業式



左 米満達弘君 (吉田中出身) 拓殖大学進学
右 倉谷修平君 (蕪崎東中出身) 日体大進学



今回この賞を受賞して思った事は今までの積み重ねで受賞出来た。特に今年は3年生だったので出場する試合はすべて、優勝を狙った。1年間頑張ってきて良かった。昨年3月の全国選抜大会で不本意な成績で終わったが、あの試合が発憤材料になった。全国で勝つことの難しさを肌で感じた、大学に進学してからも練習に励み国際舞台で頑張っていきたい。

やまなしスポーツ賞のメダル

(第三種郵便物認可)

顔

日本写真文化協会賞・金賞を受賞した

滝沢 俊男さん



たきざわ・としおさん 南商
葦崎工高3年、17歳。アルプス市十五所に、親、祖母と4人暮らし。

残しておきたい風景活写

高校三年間の写真活動で優秀な成績を取った県内の生徒に贈られる日本写真文化協会賞の最高賞に輝いた二年生と、県高校芸術文化祭優秀賞を受賞。

高校三年間の写真活動で優秀な成績を取った県内の生徒に贈られる日本写真文化協会賞の最高賞に輝いた二年生と、県高校芸術文化祭優秀賞を受賞。

父・征明さんに共有の一眼レフカメラを買ってもらった。高校総体でスポーツ写真を撮ったり、モデル撮影会に積極的に参加したほか、休日にはカメラを持ってミニバイクで出かけては、地元のみや川、紅葉や雪景色などの季節の移ろいなどを、目に留まった残しておきたい風景を写し続けた。「道端の道祖神や石仏、古びた神社など、古いものに特に心引かれる」と言っている。撮影してから現像するまでの楽しみがある。一眼レフカメラをそろえて写真に取り組み、「いざればコンテストなどにも出品したい」と意気込む。

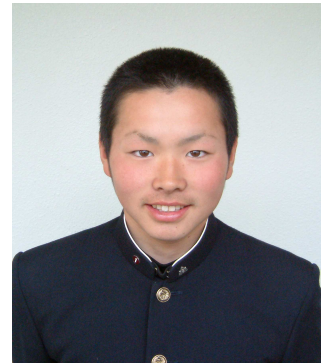
「エシ出場した全国高校総合文化祭では、ボールを打つ瞬間の卓球選手を捉えた作品「二球入魂」で優秀賞を獲得した。「今までの活動が認められた」と喜び、とてもうれしい」と喜ぶ。

「写真を本格的に始めたのは、高校の写真部に入ってから。そ

に参加したほか、休日はカメラを持ってミニバイクで出かけては、地元のみや川、紅葉や雪景色などの季節の移ろいなどを、目に留まった残しておきたい風景を写し続けた。「道端の道祖神や石仏、古びた神社など、古いものに特に心引かれる」と言っている。撮影してから現像するまでの楽しみがある。一眼レフカメラをそろえて写真に取り組み、「いざればコンテストなどにも出品したい」と意気込む。

入ったところでシャッターを切る。ピントを合わせ、手ぶれに気をつける。構図に余分なものを入れたい。基本は忠実に守り、雑誌で紹介されている技法を試してみたり、現像したネガを顧問の奥石浩明先生に見せて強く言えた。(藤原 久美子)

第65回山日席書き大会の審査が去る2月13日に山日・YBSホールで行われ、本校1年生の篠原良之君が特別推薦・県町村会長賞を受賞しました。篠原君(写真)は保育園の頃から習字を始め現在まで通っていますが野球部のレギュラーとしても頑張っているために習字を習いに行けるのはシーズンオフの11月～2月が精一杯です、その時間の少ない中での今回の受賞は賞賛に価するものです。篠原君のこれからの活躍に期待します。



(資料提供：山梨日日新聞)

(この賞は県内の写真部3年生を対象に選出され3年間で出品した、県内外のコンテスト入賞のポイントにより争われる。)

今回瀧澤君は48ポイントを獲得しての受賞対象で同じく銅賞には伊藤君が受賞。受賞した瀧澤君は、3年生最後の全国大会で、優秀賞(全国7名)に輝いた。あの入賞が一番の思い出と本人は言っています。2年連続での山梨県高等学校芸術文化祭での芸術文化祭賞も受賞し、高文連会長賞も同時受賞した。今年の全国大会現地撮影会では一緒に参加した1年生の黒沢君が見事推薦を獲得。今後が期待される。

YBS 山日席書き大会 県町村会長賞
1年 篠原 良之君(明野中出身)

U R L <http://www.kai.ed.jp/niraith/>
e-mail info@nirasakith.kai.ed.jp